

学番	7 6	糸魚川白嶺高等学校
----	-----	-----------

令和 5 年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	主体的な学習を重視し、個性の伸長をはかり、社会の変化を先取した自己の進路を切り拓ける人間、社会で心豊かに逞しく生き抜ける人間を育成する。この方針の達成のために、平素の授業、生徒の探究活動（進路研究、地域連携活動）を優先して取り組む業務とし、教員の時間外の勤務時間を1ヶ月45時間以内とし、年間360時間以内をすることを目標とする。	
三つの方針（スクール・ポリシー）		
育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	～卒業までにこのような資質・能力を育みます～ ①地域と連携する活動をとおして、地域に愛着を持ち、将来にわたり地域社会に主体的に貢献しようとする姿勢を育成します。 ②防災減災学習や地域理解学習をとおして、地域の課題を自分事として捉え、解決しようとする態度を育成します。 ③豊かな心を持ち、思いやりをもって自他を尊重し、国際化に対応したコミュニケーション能力を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	～上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います～ ①基本的生活習慣を確立させる生徒指導や人権教育、同和教育の推進をとおして、規範意識・社会性の涵養、いじめを許さない態度の育成をするための教育活動を展開します。 ②3年間の系統的で継続的な「白嶺HSJ（ホップ・ステップ・ジャンプ）」プランによるキャリア教育や防災減災学習により、学力向上、進路実現を目指すための指導や取り組みを推進します。 ③職業理解、地域理解を深め、地域課題を解決しようとする態度を育成するため、地元の産業界、関係機関等との連携・協働を推進し、地域の復興や活性化に向けた教育活動に取り組みます。	
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	～このような生徒を求めています～ ①郷土を愛し、前向きで、豊かな人間性と思いやりのある生徒 ②総合学科の特色を活かし、進路希望の実現に向けて主体的に努力する生徒 ③地域の課題を学び、地域の活性化に向けて積極的に貢献しようとする生徒	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
○進路相談の充実を図り、生徒一人一人の進路希望を早期に把握し、その達成に向けた指導を継続した結果、就職一時内定率は高い水準で推移し、進路を決定することができた。今後も第一志望の進路実現が図れるよう、白嶺HSJプランを推進する。 ○基本的生活習慣や家庭での学習習慣の確立には継続的な指導が必要である。 ○生徒が安心して学校生活を送れるよう、いじめの未然防止・早期発見に努め、職員間での情報共有や保護者との連携を継続して進める。 ○地域との連携やPTA活動を一層推進して、学校の活性化を図る。	規範意識・社会性の涵養、いじめを許さない態度の育成	(1) 基本的生活習慣の確立 (2) 規律・礼儀の尊重と互助・協同の重視 (3) 主体性を伸ばす部活動や特別活動の推進 (4) 人権同和教育、特別支援教育の推進 (5) お互いを尊重し合い、いじめを許さない態度の育成
	「白嶺HSJ」プランによる学力向上と進路意識醸成による進路実現	(1) 個別指導等による基礎・基本の定着 (2) 授業を大切にし、分かる授業の徹底 (3) 希望進路実現に向けた早期指導の取組 (4) 計画的な資格取得の指導 (5) 3年間継続したキャリア教育と防災・減災教育の推進
	学校・地域・家庭との連携の充実	(1) 小中高と連携した取組の推進 (2) 地域の復興や活性化に向けた連携の推進 (3) PTA活動の活性化 (4) 積極的な地域への情報発信 (5) いじめ問題に対する情報の共有と組織的な対応の推進
	教員の時間外勤務時間の削減	(1) 閉庁日の実施 (2) 定時退庁日の実施 (3) タイムカードなどによる勤務時間管理 (4) 負担を感じていると思われる職員への管理職による対話、相談の機会を増やす。

重点目標	具体的目標	具体的方策	B評価の基準	評価		
規範意識・社会性、いじめを許さない態度の育成	(生徒指導) ・基本的生活習慣の確立	・身だしなみ検査の回数を増やし、端正な身だしなみを定着させる。 ・立哨指導により挨拶の励行・遅刻防止を図る。 ・こまめな注意喚起をおこない、問題行動の早期発見および未然防止に努める。 ・スマートフォンの学校内使用に関するルールを遵守させ、マナーの徹底を図る。 ・SNS教育プログラムを全年次で実施し、様々なトラブルに巻き込まれないように指導する。	・違反人数の減少。 ・遅刻件数の減少。 ・特別指導件数の前年比減。 ・授業中のスマホ指導件数の減少。 ・SNSが介在する特別指導件数の減少。 ・市民からの苦情連絡の減少。	B		
	・交通マナーの確立と安全の徹底	・通学路街頭指導を行い、電車・バス等の乗車マナーや歩行者としてのマナー、自転車・バイクの乗車、駐輪マナーなどを指導する。 ・バイク実技講習会、自転車安全講習会の実施と関係届出手続きの徹底を図る。	・交通人身事故の発生ゼロ。			
	(生徒会) ・生徒会活動の自治意識の向上	・自主自立の精神を育成し、組織を確立させ、自治の考えを生徒に伝える。 ・委員会活動を通じて、学校全体に貢献する社会性と責任感を育成する。 ・部活動の活性化を目指す。	・生徒会執行部の生徒主導による企画運営ができたか。 ・委員会活動を、生徒が主体的かつ活発に行うことができたか。 ・加入率の向上と自らの長所を生かせる場を設定する	B		
	(1年次) ・互いに尊重し合い、有意義な集団行動をとれるようにする ・規律を守り、高校生としての自覚を育てる	・挨拶をしっかりとさせる。 ・話を聴く態度を身につけさせる。 ・全員が有意義な高校生活を過ごせるように、ルールやマナーについて指導する。 ・服装、頭髪検査を定期的に行い、ルールを守る姿勢を身に付けさせる。 ・スマートフォンの使い方について日常的に指導する。 ・授業を通じて地域の特性を理解させ、地域に貢献できる能力を身に付けさせる。	・集団の一員であることを念頭に置いた行動をとることができたか。 ・制服の着こなし方がふさわしいか。 ・スマートフォンを正しく使っていたか。 ・授業に積極的に取り組み、地域の特性を理解するように努力したか。			B
	(2年次) ・規則を守り、充実した学校生活を過ごせるようにする ・地域社会との連携を通じ、地域の課題について考え、社会の一員として自発的に行動できる力を育む	・挨拶をしっかりとさせる。 ・時間や規則を守った行動をさせる。 ・身だしなみを整えさせる。 ・相手を思いやり尊重する気持ちを育てる。 ・HR活動や学校行事に積極的に参加させる。インターンシップやジオパーク学習、防災・減災学習を通して地域社会への理解を深める。	・身だしなみを整え、規則正しく学校生活を過ごせたか。 ・相手を思いやり、クラスや年次で協力して活動できたか。 ・地域理解を深め、地域の一員として、積極的に関わる姿勢を持てた。	B	B	
	(3年次) ・最高年次としての自覚を持って学校生活を送る	・挨拶をしっかりとする。 ・時間と規則を守る。 ・身だしなみを整える。 ・相手を思いやり尊重する気持ちを持つ。 ・諸活動に積極的に参加し、貢献する。	・挨拶ができたか。 ・基本的生活習慣が確立できたか。 ・丁寧な言葉使いを心掛け、良好な人間関係	B	B	

	・規則を守り、社会の一員としての自覚を育てる	・地域の復興や活性化のために貢献する。	- を築けたか。 ・各種行事や活動において、リーダーとしての自覚を持って行動できたか。		
	(保健・環境) ・自己の健康管理能力の育成を図る ・環境美化に取り組ませる ・防災・減災意識の啓発	・講演会や相談活動などを活用し、心身の健康管理能力の育成と、より良い生活習慣の定着を図る。 ・職員間及び関係機関等で連携し、生徒の心身の健康に関するきめ細やかな個別対応及び全体指導の充実を図る。	・より良い生活習慣の定着がみられたか。 ・連携により指導の充実が図れたか。	A	A
		・環境美化に対する関心を高め、学習環境の整理整頓と校内の環境美化に努めさせる。	・環境美化に関心を持って取り組むことができたか。	A	
		・生徒の防災マインドを高め、緊急時に生徒と職員が適切に行動できるようにする。	・防災意識が高まったか。	A	
「白嶺HSJ」プランによる学力と進路意識醸成による進路実現・学校・地域・家庭との連携	(教科指導) ・基礎・基本の学力向上と家庭学習の定着を図る ・研修の充実を図る	・学習のための適切な課題を提供し、家庭学習の定着を目指す。 ・学習の遅れがちな生徒の個別指導を実施する。 ・生徒の教室間の移動を速め、スムーズに授業を開始する。 ・生徒の実態に即した効果的な指導法を研究・展開する。 ・公開授業を実施して、授業力の向上を図る。	・家庭学習時間1時間を目安にする。 ・長期休業等を活用した補習等の実施 ・ほとんどの生徒がきちんとできる。 ・各種研修に参加できたかどうか。 ・公開授業を実施する。	A	A
	(進路指導) ・進路第1希望の達成率の向上を図る ・各年次と協力し、生徒の進路意識を高める ・生徒の進路希望の実現を円滑に進める	・希望者に対して相談等の機会を充実させる。 ・進路ガイダンスや進路講演会を各年次と協力して行い、生徒の進路意識を高める。 ・継続的に模擬試験を行うことで生徒の学力把握を行う体制を確立する。 ・ハローワークとの連携を密にし、早期の意識高揚と指導を行い、就職試験に意欲的に取り組むよう指導する。 ・生徒の受験報告書を確認し、進路希望実現に努める。	・相談が必要な生徒に適切に対応できた。 ・各年次で2回以上行った。 ・進路に応じて模擬試験を受験した。 ・希望者全員の就職試験の機会が確保できた。 ・状況に応じて詳しい聞き取りや受験先に確認をするなど、適切に対応できた。	A A B A A	
	(1年次) ・自己の適性や興味、関心を基に、進路希望を明確にする ・地域理解を深めることにより、地域や社会の課題に気づく	・産業社会と人間の授業をきっかけとして、自発的、積極的に進路学習を進め、主体的な進路選択ができるようにする。 ・将来の進路希望を明確にして、系列を選択させる。 ・進路実現に向けて必要な学力や資格の取得に励ませる。 ・講演会や見学を通して、地域への理解を深め地域の課題や問題点を意識させる。 ・体験活動を取り入れ、主体的に行動できる姿勢を養う。	・積極的に調べ学習等に取り組むことができたか。 ・進路希望を明確にすることができたか。 ・授業に集中して取り組めたか。 ・創意を持ってレポート作成を行うことができたか。 ・体験活動で主体的に行動できたか。	A	A

	(2年次) ・学力の充実を図る ・進路を明確に決め、その実現に向けて努力させる	・授業に集中し、基礎学力を確実に身につけさせる。 ・進路実現に向けて必要な学力や資格の取得に励ませる。 ・講演会や見学を通して、地域への理解を深め地域の課題や問題点の解決に必要なことを考え、行動する。 ・体験活動を取り入れ、主体的に行動できる姿勢を養う。	・目標・意欲を持って授業に出席したか。 ・資格、検定試験を受験したか。 ・創意を持ってレポート作成を行うことができたか。 ・体験活動で主体的に行動できたか。	A	A	
	(3年次) ・進路希望を実現するために努力させる	・進路指導部と連携を図る。 ・進路希望実現に向けた科目選択の指導に力を入れる。 ・進路希望を実現するために授業を大切にしてい、学力をつける。 ・基礎学力の定着と、発展科目でのさらなる学力の伸長を目指す。 ・資格、検定試験に挑戦する。 ・計画的に模擬試験を受験する。 ・朝学習の時間を活用して、進路実現に必要な学力をつける。 ・進路指導部と連携して進路指導を行う。 ・希望する進路に必要な情報を調べる。 ・個別面談で生徒と保護者の進路希望を把握する。	・進路希望調査をもとに、進路希望を明確にさせる。 ・進路ガイダンスに意欲的に参加したか。 ・意欲を持って授業に出席したか。 ・課題や提出物をしっかり出したか。 ・資格、検定試験や模擬試験を受験したか。 ・進路指導部との連絡を密にできたか。 ・企業訪問やオープンキャンパスに参加したか。 ・生徒・保護者ともに納得のいく進路選択ができたか。	A	A	A
	(渉外) ・PTA活動のより一層の充実を図る	・広報活動(運営委員の協力、PTA通信の発行)を充実させる。 ・総会や各行事の保護者の出席率を高める。 ・懇談会を開催し、情報交換を図る。 ・PTA行事の改善をすすめ、活動の活性化を図る。	・成果ある広報活動ができたか。 ・保護者の出席率を向上できたか。 ・保護者の意見を活動に生かしたか。	A	A	
	(探究学習運営) ・キャリア学習、防災学習に主体的に取り組む ・地域理解を深め、地域の課題を探究する	・探究学習の体系的カリキュラムを開発する。 ・体験→考察→発表のサイクルを明確にする。 ・地域機関と緊密に連携し、地域人材から積極的に支援を受ける。	・他校との交流活動に積極的に参加する生徒が増えたか。 ・考えをまとめて発表する場面が増えたか。 ・地域機関や専門家など学校外部からどのような評価を受けたか。	A	A	
教員の時間外	(全教員) ・勤務時間の削減に努める	・仕事の効率化 ・閉庁日、定時退庁日の実施 ・タイムカードによる勤務時間管理 ・仕事の平準化	・月の勤務時間を45時間以内、年間360時間以内の教員数を昨年度以下にする。	B	B	B

成 果	新型コロナが収束し、体育祭、白嶺祭、球技大会といった学校行事を生徒会中心に、生徒が主体的に企画、準備、運営に取り組み、充実した活動を行う事ができた。また、他者と協働し、行動の仕方を身に付け、合意形成を図り、意思決定できる能力を育成することができた。 白嶺防災フォーラムにおいては、ジオパーク推進委員会や、糸魚川市の魅力化コーディネーターの協力を得て、県外校との積極的な意見交換や交流を行うことができた。 工業系列では建設業協会との合同授業、福祉系列では外部の講師を招いての授業を実施し、生徒の体験的な学びを取り入れ、また、職業観や、地域への貢献意識を高めることができた。 進路については日頃の進路指導はもちろん、インターンシップや企業見学、ジョブコーディネーターによる指導により、就職希望者のほとんどが1次募集で採用を決めることができた。 いじめ事案については、生徒の情報を速やかに職員間で共有し、未然防止を心がけた。SNSのトラブルが多かったが、いじめ認知を早期に行い、被害が広がらないよう職員一丸となって取り組む事ができた。 P T Aによるあいさつ運動や、白嶺祭でのもちつき等で多くの保護者に学校の活動に参加と御協力をいただいた。また、P T A運営委員会では、校則について、保護者と学校で積極的な意見交換をすることができた。 盗難事案が複数回起こったが、年次保護者会を開催し情報共有をし、意見を聞き、学校と保護者で盗難防止対策を図ることができた。 定時退庁日であることを呼びかけたり、月の時間外勤務が多い職員と対話をし、若干ではあるが教員の時間外勤務時間は縮小した。	総合評価 B
----------------	---	----------------------

<評価基準>

A＝達成できた。	(総合的に見て達成度が8割以上)
B＝ほぼ達成できた。	(総合的に見て達成度が6割以上)
C＝あまり達成できなかった。	(総合的に見て達成度が4割以上)
D＝達成できなかった。	(総合的に見て達成度が4割未満)